

り鳥について調べてまとめた。

4年生は「自然の宝を知ろう」のテーマで、蕪栗沼にすむ生き物調査を行った。この調査は生物多様性についての直接的体験となった。夏と秋に2回実施し季節による生き物の変化も感じ取ることができた。

③ 米作り体験

5年生は「米作りを体験しよう」のテーマで、ふゆみずたんぼでの無農薬・無肥料で米作りに取り組んだ。ふゆみずたんぼは蕪栗沼に飛来する渡り鳥との共生の農法である。この農法に取り組んでいるNPO法人の支援の下、種まき・人間代かき・田植え・竹ぼうき除草・稲刈り・脱穀と一連の作業を体験した。これらの作業を進めながら、田んぼの生き物調査・植物調査・救荒雑草調査も平行して実施し、生物多様性についての学習をした。

体験の最後には、収穫祭を実施し、NPO法人・PTA・地域の方々に活動の様子や感謝を伝えたり、収穫したお米をおにぎりにして食べたりと地域を巻き込んだ活動となった。さらに、タイのバンライ小とテレビ会議での交流も実施した。

④ ふるさとの環境を考える学習

6年生は「自然環境を見つめよう」のテーマで、今まで学習してきた『ふるさと大賞』の自然の豊かさと今後の在り方をそれぞれの課題をもって調べ、まとめた。また、自然保全の大切さを感じながら、蕪栗沼クリーン作戦に参加しゴミ拾いをした。

学習したふるさとのよさを、タイのジラサート校とテレビ会議で交流し、発表し合った。



① 学校周辺で見つけたコチドリの卵



② 蕪栗沼での渡り鳥観察



③ 竹ぼうき除草



④ タイ・ジラサート校とのテレビ会議

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

「田んぼの生きもの図鑑」(社) 農村環境整備センター 「田んぼの生きもの図鑑・植物編・」NPO 法人生物多様性農業支援センター 「田んぼの食べられる植物図鑑」NPO 法人田んぼ
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間の指導計画は3年生から6年生までの4年間を見通し、大単元として環境教育に取り組んでいる。内容は、3年「大貫の自然を楽しもう」「蕪栗沼の生き物たちを紹介しよう」、4年「自然の宝を知ろう」、5年「米作りを体験しよう」、6年「自然環境を見つめよう」「未来を見つめよう」のテーマで『ふるさと大貫』の学習を進めている。これらの学習は5年生の「米作りを体験しよう」を中心として、「生き物調査」→「米作り」→「環境を考える」→「未来へ」という大単元として捉えている。

これらの活動は、地域やNPO等との連携、学習成果は地域と共有したり、海外の学校（ユネスコスクール）と交流したりとHOPEの観点にも留意している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校経営重点目標の一つにESD教育の推進を掲げ、校務分掌の中にもESD教育担当者を明記している。担当者は、各学年の活動内容や方法の相談に応じながら組織として取り組めるようにしている。また、NPO等との連絡調整やユネスコスクール東北大会への参加など、外からの情報が入ってくるように留意している。さらに、校内研修でESDについて学習したり情報交換したりしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

職員による学校評価、学校関係者評価を毎年2回実施している。また、保護者アンケートも年1回実施。その中から、地域の環境を生かした教育が行われているので子供たちが地域のよさに目を向けられるようになった、地域の人々に関わることでできる活動があり、子供たちから元気をもたらったという意見や、たくさんの方の関わりで笑顔が見られてよかった等の意見が見られた。課題としては、環境だけでなく、歴史や文化についての学びも取り入れたほうがよいということだった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

5年生が活動のまとめとして収穫祭を実施。そこで、活動内容のプレゼン、感想発表、収穫した米でおにぎりを作り食べる、ゲームでふれあうなどの交流をした。お世話になったNPO法人の方、地域の方に学習の一環を知ってもらうことができ、来年もぜひ手伝いたいという言葉をいただいた。また、1年間の活動を冊子にまとめ、保護者や地域に配布した。

さらに、タイの小学校との Skype 交流は毎年継続しているので、異文化理解が進んでいる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

米作りの活動はNPO法人との協働学習である。米作り以外にも、生き物調査や救荒植物調査などをしながら生物多様性について学習している。また、この活動は地域のボランティアの方々の支援もいただき、多くの人が集まる活動につながっている。

なお、タイの小学校の交流では宮城教育大学の支援をいただいて継続している。

また、ユネスコスクール東北大会や各種研究会に参加し、多方面の方々と情報交換をしながら協力をいただいている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

2014年から4年間にわたりESD Riceプロジェクト及びFoodプロジェクトに参加し、その後も毎年継続して海外のユネスコスクールと交流している。最初は言葉の通じない海外の友達との会話が難しかったが、回を重ねるごとに子供が英語を使ってプレゼンしたり、お互いに質問し合ったりと楽しく中身のある交流になってきている。調べたことを発表する相手の一つとして海外の小学校があることで活動の意欲付けの一助にもなっている。今後もよりよい交流になるよう工夫しながら継続したい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

地域・保護者が子供たちの活動を見たり、参加したりすることで学校に対する見方がより温かくなり、協力体制ができあがってきた。（子供たちががんばっているのだから、協力を惜しまないという意見である。）

職員から新しい活動内容や方法の具体的な提案があり、来年度の計画に反映できた。

5年生の米作り体験では、毎回チェックシートによる自己評価を積み重ねてきた結果、この活動によって自己有用感が高くなってきたことが分かった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

『ふるさと大貫』の大テーマで3年生から6年生までの4年間を見通した学習を進める。

○3年生「見つけよう、楽しい大貫」・大貫の自然を楽しもう・大貫のソーセージ作りを体験しよう・蕪栗沼の生き物たちを紹介しよう

○4年生「大切にしよう、大貫の宝物」・人の宝を知ろう・大貫の宝を知ろう・自分の命を見つめよう

○5年生「感じよう、ふるさと大貫」・米作りを体験しよう・自然環境を見つめよう

○6年生「見つめよう大貫、そして未来へ」・大貫博士になろう・未来を見つめよう

30年度は、新しい取組として、自然環境だけでなく、地域に伝わる文化（謡曲）や地域の歴史についての学習も計画している。また、5年生の「自然環境を見つめよう」や6年生の「未来を見つめよう」ではSDGsにもふれていきたい。